



一般財団法人

大日本蚕糸会 要覧





財団の概要

名 称

一般財団法人日本蚕糸会 The Dainippon Silk Foundation
<https://silk.or.jp>

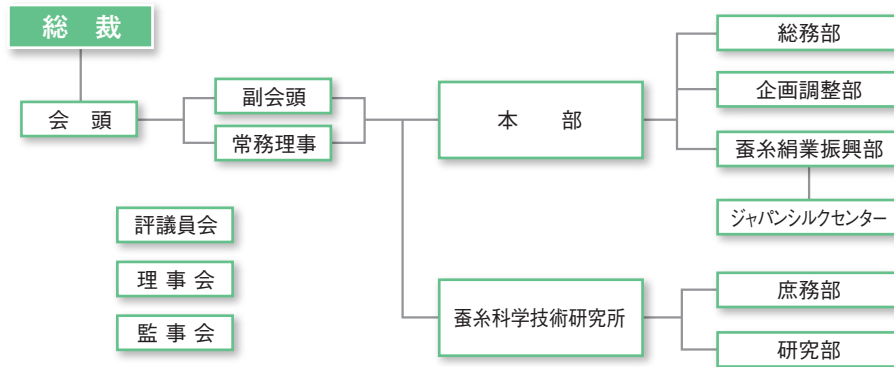
設 立

昭和15年(1940年)3月16日認可

目 的

蚕糸絹に関する基礎科学及び応用技術の研究開発を行い、あわせて関係する科学技術を助長振興し、かつ、蚕糸絹業の改良発達を図り、もって蚕糸絹に係る社会文化の向上発展に寄与することを目的とする。

組 織



この紋章は、桑の葉と繭をイメージしています。



財団の事業

1 蚕糸絹業功労者の表彰

蚕糸絹業の振興発展等に貢献している方に対して毎年度表彰を行っています。

2 蚕糸絹に関する研究開発及び研究助成

蚕糸科学技術研究所において蚕糸絹に関する研究開発を行うとともに、研究課題を公募して助成を行っています。

3 国内養蚕業に不可欠なサービスの提供

養蚕業の維持に欠かせない原種の蚕種製造・提供や、養蚕農家への技術指導及び新規就農者等への研修を行っています。

4 国内蚕糸業への支援

日本の伝統、文化と密接に関わりながら営まれてきた蚕糸業を持続可能なものとするため、養蚕農家・関連事業者への支援を行っています。

5 蚕糸絹に関する情報発信

蚕糸業の現状や国産生糸の歴史的・文化的価値について、HPやシルクレポートなどの多様な媒体を通じて広く情報を発信しています。

6 ジャパンシルクセンターでの国産絹製品の展示・普及

蚕糸会館の1階にあるジャパンシルクセンターで国産絹製品の販売や展示を行っています。

7 純国産絹マークの運営

国産繭から作られる国産生糸やそれを使用した絹製品への純国産絹マークの発行管理を行っています。

8 財団資産の管理運営



蚕糸功労者表彰式（総裁殿下御臨席）



純国産絹マーク



ジャパンシルクセンター



財団の沿革

- 明治25年 4月(1892年) 大日本蚕糸会創設(任意団体)
目的 蚕糸業の改良発達
事業 調査、海外販路拡張、業界連絡、品評会、表彰、建議、図書刊行、講習会など
組織 会員制、各県に支会設置
- 明治38年 8月(1905年) 社団法人認可
初代総裁に、伏見宮貞愛親王殿下を奉戴
- 大正 2年 8月(1913年) 総裁に、閑院宮載仁親王殿下を奉戴
- 昭和15年 3月(1940年) 財団法人蚕糸科学研究所設立許可
当時ナイロンの発明と戦争による生糸需要の変化に対応するため、
生糸及び絹に関する研究の推進が強く要請され、
民間寄付金171万円(内基本金50万円)をもって、総合研究機関として設立
- 昭和17年 5月(1942年) 社団法人大日本蚕糸会は財団法人蚕糸科学研究所と合併のため解散し、
新しい財団法人大日本蚕糸会に事業等を継承
- 昭和20年 9月(1945年) 総裁に梨本宮守正親王殿下を奉戴
- 昭和22年 9月(1947年) 総裁に節子皇太后陛下(貞明皇后)を奉戴
- 昭和27年 7月(1952年) 文部、農林両省の共管に移行
総裁に高松宮宣仁親王殿下を奉戴
- 昭和28年 4月(1953年) 貞明皇后蚕糸記念事業を開始
蚕糸科学研究所小平養蚕所を同小平支所に改称
- 昭和49年 4月(1974年) 蚕糸科学研究所小平支所を茨城県稲敷郡阿見町に移転し、名称を蚕品種研究所に改称
- 昭和56年 4月(1981年) 総裁に常陸宮正仁親王殿下を奉戴
- 昭和58年 4月(1983年) 旧蚕糸会館を取り壊し、新蚕糸会館を建設
- 昭和62年 7月(1987年) 蚕糸科学研究所建物(新宿区百人町)を取り壊し、サンケンビルディングを建設
- 平成 4年 4月(1992年) 創立100周年記念行事を開催
- 平成11年12月(1999年) 蚕品種研究所を蚕業技術研究所に改称し、研究領域を拡大
- 平成17年 6月(2005年) 天皇后両陛下、蚕糸科学研究所へ行幸啓
- 平成21年11月(2009年) 天皇陛下御在位20年慶祝 蚕糸絹文化シンポジウムを開催
- 平成24年 4月(2012年) 創立120周年記念行事を開催
- 平成24年12月(2012年) 社団法人日本絹業協会解散に伴う事業継承
- 平成26年 4月(2014年) 公益法人制度改革により「財団法人大日本蚕糸会」から「一般財団法人大日本蚕糸会」へ
移行登記(行政庁は内閣府)
- 令和 3年 4月(2021年) 蚕糸科学技術研究所発足(蚕糸科学研究所・蚕業技術研究所統合)

所在地

本部

〒100-0006

東京都千代田区有楽町一丁目9番4号

蚕糸会館 6階/役員室・総務部

TEL.03-3214-3411

FAX.03-3214-3415

企画調整部・蚕糸絹業振興部

TEL.03-3214-3500

FAX.03-3214-3415

敷地 1,091㎡

規模 地上10階、地下2階 延9,946㎡



■JR有楽町駅 日比谷口 徒歩2分

■東京メトロ日比谷線・千代田線・都営三田線 日比谷駅 B1出口 徒歩2分

東京メトロ有楽町線 有楽町駅 B1出口 徒歩2分

東京メトロ丸の内線・銀座線 銀座駅 A3出口 徒歩5分



蚕糸科学技術研究所

〒300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉1053

TEL.029-889-1771

FAX.029-889-2356

敷地 118,355㎡

規模 本館、研究棟等23棟 延5,500㎡



■自動車利用

圏央道 阿見東ICより阿見方向へ、新山交差点を右折し約200m先左側

■タクシー利用

JR常磐線荒川沖駅 所要時間20分

■バス利用

JR常磐線荒川沖駅(東口) あみプレミアム・アウトレット行バス 阿見よしわらバス停 徒歩5分



サンケンビルディング

〒169-0073

東京都新宿区百人町三丁目25番1号

サンケンビルディング

TEL.03-3368-4891

FAX.03-3362-6210

敷地 6,200㎡

規模 地上5階、地下1階 延15,925㎡



■JR山手線 新大久保駅 徒歩8分、高田馬場駅 徒歩10分

JR中央・総武線 大久保駅 北口出口 徒歩6分

■東京メトロ東西線 高田馬場駅 徒歩10分

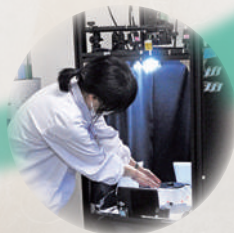
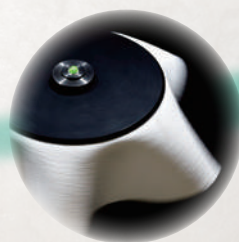


<https://silk.or.jp>



飼育から製品まで 各セクションの プロフェッショナルが集結

蚕糸科学技術研究所は、蚕糸研究に携わる民間機関のひとつとして、基礎研究や先端技術開発に取り組む大学・国公立機関との連携も必要に応じて推進しながら、蚕糸分野の研究・技術開発を進めています。同時にこれまで培われた技術の伝承・普及にも取り組んでいます。当所は、蚕種から絹織物に至るまでの研究成果や技術動向を一研究機関から情報発信できる全国でも稀な総合的な研究所であり、一連の生産技術を支える遺伝資源、蚕育種、養蚕、栽桑、製糸および絹素材に関する基盤研究に取り組んでいます。



● 飼育環境

当所では、稚蚕飼育や実用規模での試験飼育が可能な蚕室設備を備え、一蚕期(約1ヶ月)で最大20万頭のカイコ飼育に対応できます。この大量飼育は、約2ヘクタールの広大な桑園から供給される年間約10トンの新鮮な桑葉によって支えられています。桑園には143種類の桑品種見本園が設置されています。



壮蚕への給桑



回転まぶしによる上簇



繭質検査・生糸検査

良質な繭をつくる品種の選抜やその系統の維持には繭の品質評価が不可欠です。当所で保存する各品種の繭質が適正に継代維持されているか調査するために、検定用の繰糸機を用いて繭質評価を行っています。また、生糸の性状調査に必要な技術と専用設備も整備され、生糸検査も実施しています。

尚、繭質検査・生糸検査は、外部からの受託検査にも対応しています。



繭質調査



HR型自動繰糸機

蚕種製造

当所で開発したオリジナル蚕品種やカネボウ系蚕品種の卵(蚕種)を、養蚕農家や企業向けに年間約500万粒(200箱※)製造しています。特に、国内で最も飼育量の多いカネボウ系蚕品種の製造に必要な原種の蚕種を蚕種製造会社に供給しており、養蚕業の維持にとって重要な役割の一端を担っています。これらの蚕種製造では徹底した母蛾検査を行っています。

※当所では、蚕種一箱を25,000粒として製造・配布しています。



交配と採種



蚕蛾の産卵

広大な自然環境と

蚕品種開発・遺伝資源保存

新たな蚕品種開発に必要な育種素材として当所では約150種類のカイコ遺伝資源を保有しています。これらのカイコの遺伝解析と巧みな交配・選抜技術の融合により、これまでに「プラチナボーイ」、「おりひめ」、「玉小石」、「緑繭2号」などのユニークな蚕品種を開発し、衣料用途のみならず医療分野や化粧品分野などの多様な消費ニーズへの対応も行っています。また、保有する遺伝資源の中には、学術的にも貴重で珍しい系統もあります。このような系統の保存法として、液体窒素による卵巣・精子の長期凍結保存法を開発しました。



珍しいカイコ



色々な繭



液体窒素による遺伝資源保存

技術指導・協力

伝統的な養蚕技術を維持継承できる数少ない研究所として、養蚕農家への技術指導や新規養蚕就農者の研修なども積極的に行っています。

また、家政系大学等との共同研究により、絹消費科学の視点から絹素材の特性を解明し、その研究成果の一部は研修等を通じて消費者に発信しています。



養蚕農家研修



カイコの人工飼料飼育研修

と設備の中で育まれる新たな発想